



浄福寺
門徒会発行
☎ (025) 536-2532
FAX (025) 536-2674
✉ jofukuji@alpha.ocn.ne.jp

大切な人を忘れない

7月8日に大杉照勝さんの1周年法要が本堂で勤まりました。その後お墓に納骨されました。皆様も機会があればいつでも大杉家のお墓にお



参りして下さい。
大杉さんのご親族31名と浄福寺役員11名、浄福寺からは、早川昭真、私と坊守そして長男大智にも帰って来てもらい、本堂でお勤め致しました。そして納骨後、水沢家でお昼の食事をいただきました。

私も大杉さんのご親族のことはよくわからないので、食事の途中で、自己紹介と大杉さんとの思い出話をそれぞれ語ってもらいました。お話を聞いていて、皆さんが大杉さんにとっても大事にしている感謝していたことがわかりました。だからこそ、遠方でも今回のご法事に来られたのだと思います。

改めて大杉さんの人柄が偲ばれて、何人もの方が涙を流されていました。それを見た私も涙ぐんでしまいました。お世話になった人に感謝するということは、人としてとても大切な行為ですね。残念ながら今は、この心が失なわれてしまっているのかもしれない。

お釈迦様は、「便利になり、物が豊かになるに従って、人の心は濁っていく。」と3,000年前に指摘されています。便利になるに従って、人は、目に見えないものを追い求めて、目に見えない大切なものを見失っているのかもしれない。例えば、愛情や感謝などの「おかげさま」という感情です。

批評家の若松英輔さんは「科学的に証明されることが真実であると考えられるの方が、もしかしたら、大きな過ちかもしれないのである。五感で感じられないことと、「無い」ことは違う。空が曇っている時、太陽は見えないが、太陽は確かに存在している。私たちの目に見えないだけだ。信用も信頼も、希望も、意味もすべて見ることができず、触れることもできない。こうしたものを信じることはできなくなった人間は、他者を傷つけることは自分を損なうことと同じ



だということを忘れて、争いを繰り返している。」

「真に平和を実現しようと思えば死者の助力を仰がなければならない。毎年、広島と長崎に人々が集まるではないか。彼らは『もう過ちは繰り返しません』と死者に向かって今日も語りかけている。」と言われています。

人は、忘れることによって過ちを繰り返してしまいます。そうならないためにも、広島や長崎での式典を毎年執り行うのです。このことが大切なのです。それは法事でも同じです。

大杉さんが一生懸命浄福寺を護ってくれたのも、ご門徒に大切なものを伝えるためだったのかもしれない。浄福寺には大杉さんの魂(いのち)がずっと生きています。

住職 井上陽雄

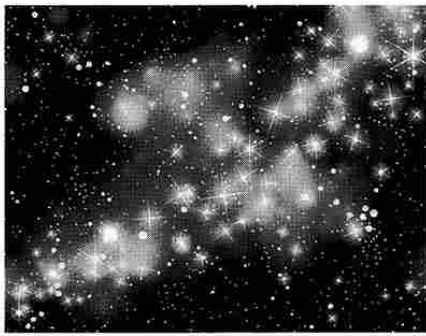
死は存在しない その1

誰にとつても、「死後どうなるのか」は気になる場所ですね。

親鸞聖人は、「私たちはすべて阿弥陀如来の本願力によって浄土に往生し、仏となってまたこの世に還ってくる」と言われていますが、それを聞いてもなかなかピンときません。

私たち僧侶が、経典に書かれていることをいかにわかりやすく伝えるかが大きな課題となっています。そんなことを考えているときに、面白い本に出会いました。それは、田坂広志さんという量子力学の工学博士が書かれた「死は存在しない」という本です。そこには、浄土真宗の教えとの共通点が多く書かれており、とても興味を持ちました。

田坂さんは「この宇宙に存在する量子真空の中に『ゼロ・ポイント・フィールド』と呼ばれる場があり、この宇宙のすべての出来事やすべての情報が、波動情報としてプログラムされている。」と云うのです。そこは、無限の可能性を秘めており、それはまさに仏教でいう『極楽浄土』であり、キリストでいう天国であるというのです。



また、「私達の肉体がある間は、自我意識という苦や不安、エゴなどに満ちた私であるが、死後その『自我意

識』は徐々に消え、完全に自我意識がなくなった状態を『超自我意識』といい、至福の状態になる。それは、仏教で言う成仏といい、涅槃ともいう。」と云われています。

「自我意識」とは、仏教で言う「煩惱」のことで、仏に成るとは、そこから解放されていくということを意味します。つまり、私たちは、肉体がなくなっても意識は生きているということになります。これを仏教では*「阿頼耶識」といい、古代インド哲学では「アーカーシャ」といいます。この「阿頼耶識」には、この世界の過去の出来事すべての結果があり、未来のすべての原因となる「種子」が眠っているとされています。また、「アーカーシャ」の思想には、宇宙誕生以来のすべての存在について、あらゆる情報が「記憶」されている場があるとされています。これは田坂さんが言われているゼロ・ポイント・フィールド仮説と同じですね。

*阿頼耶識とは、「蔵の心」という意味があり、私たちの肉体は、死ねば滅びるが、阿頼耶識は、肉体が生まれるずっと前から、肉体が滅びても、滅びることなく続いている。この阿頼耶識は、果てしない遠い過去から、永遠の未来に向かって流れている。私たちの永遠の生命を阿頼耶識という。例えば、とうとうと流れる大河のようなもので、肉体は、川面にできたあぶくのようなもので、あぶくができれば消えようが、河の水は、増えもしなければ減りもしない。ちょうどそのような関係で普段自覚している意識よりはるかに深いところで、はるかに強い力で私たちを動かしているのが阿頼耶識である。

それを仏教では「仏に成る」といい、「浄土に往生する」ということは、親鸞聖人は阿弥陀如来の本願力のはたらきによるものだと云われています。

作者不明ですが、こんな歌もあります。

「思えばこの世は仮の宿 慈悲の御親に手を引かれ 慣れし故郷にいそいそ帰る我が身かな」

元NHKアナウンサーの下重暁子さんのお母様は上越市清里区出身で、浄土真宗のご門徒さんです。そんなご縁で下重さんが上越市で講演された時に、お婆様がこの歌をよく詠っていたとお話しされました。

よくよく考えたら私達のこの世は「仮の宿」だということです。浄福寺にあるお軸にも「法道ただ一筋に渡りなば仮の浮世も住みよかるべし」と書かれています。「慈悲の御親云々」というのは、過ちを犯し続ける煩惱に満ちた私達を「決して見捨てない」と誓われた阿弥陀様の手引に引かれということです。「慣れし故郷」とは、私達の本当の故郷である「お浄土」のことです。とても味わい深い歌ですね。

法然聖人の歌にも「われ元極楽にありし身ならば定めて帰りゆくべし」とあります。私達が、この世で生涯を終えるということは、ただ故郷に帰っていくということなのです。そこで私達は仏に成ります。では、仏に成るとは、どういうことなのか。それは次号に書きます。

次号52号に続きます。

教養を磨く

田坂広志

宇宙論、歴史観から、話術、人間力まで



元文化出版



長男 大智 山神加奈恵さん お披露目会のご案内

長男大智の結婚式を10月8日に浄福寺本堂で執り行うことになりました。お相手は、広島県出身の山神加奈恵さんです。

それに先駆けて6月25日に京都東急ホテルで、結納の儀を済ませました。前日に車で京都に向かったのですが、その時に坊守から、「お決まりの『口上』というのがあるから、それを言わなければならないわよ」と急に言われたので、「もっと早く言うてくれよ」と慌ててしまいました。それから何度も練習して「この度は、ご縁談をご承諾頂き、誠にありがとうございます。今後とも幾久しく末永くよろしくお願ひ申し上げます。」と何とか無事にご挨拶ができました。

法話とは違って短い言葉ですが、すごく緊張しました。実は、口上を述べようとしたとき、感極まって少しウルウルしてしまいました。その後、両家の顔合わせを兼ねて、食事を楽しみました。新しい家族ができたようで、とても嬉しい気持ちになりました。

大智がこの度結婚できたのも、ご門徒さんや有縁の方々のおかげと心より感謝しております。結婚式は、10月8日に浄福寺で勤めますが、また、感極まって涙を流すかもしれませんね。

そして、今後お世話になるご門徒さんに向けて、二人のお披露目を計画しました。詳しい内容については、これから決めていきますが、密を避けて下記の日程で二回に分けて執り行いますので、皆様方から祝福して頂ければとても嬉しいです。ご都合の良い日にいらして下さい。

また一層ウルウルしてしまうかもしれません。

記

- 日時 1回目 11月3日(金) 15時～16時
2回目 11月4日(土) 15時～16時
- 会所 浄福寺本堂
- 内容(案)
 - 一、勤行『讃仏偈』
 - 一、住職挨拶
 - 一、二人の紹介と挨拶
 - 一、花束贈呈
 - 一、祝辞
 - 一、詩吟(3日)、民謡(4日)
 - 一、坊守挨拶
- 服装と持ち物 普段着よりちょっとお洒落な服装にお念珠と式章(お持ちの方)
- お祝い金 5,000円(それ以上でも大歓迎です)を当日お持ちください。



第65回『有縁講』のご案内

赤倉ホテルの有縁講に今年は左記の日程で参加します。

近年は全体の有縁講の参加者が少なくなってきたおり、浄福寺でも徐々に少なくなってきました。

65周年でもありますので、一人でも多くの参加者をお待ちしています。浄福寺のご門徒でなくてもかまいませんので、お誘い合せてご参加下さいませ。ようご案内申し上げます。



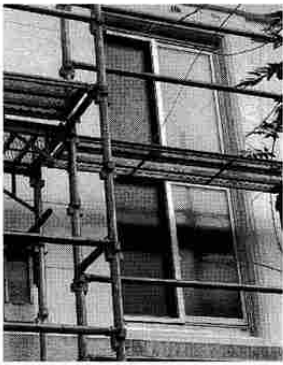
記

- 日時 令和5年11月21日(火)～22日(水)
- 費用 23,000円程度の予定
- 持ち物 21日の昼食 お念珠
着替え 洗面道具 保険証
常備薬 マスクなど
- 集合場所 21日 柿崎地区公民館前10時出発
帰りは22日 柿崎着16時半頃
飯山市明德寺様参拝
道の駅花の駅 千曲川でのお買い物
リンゴ狩り(未定) など
- 宿泊場所 赤倉ホテル
- 申込み切 10月31日 定員 20名
(TEL 0255-87-2001)

浄福寺本堂の窓枠の 取り換え工事について

本堂の窓枠取り換え工事を令和5年8月31日より秋のお彼岸法要まで実施しました。従来の窓枠は二重サッシになっており、その間に防犯のための鉄の網が入っており、それが、経年劣化によって錆が浮き彫りになってきました。このままではやがて錆が広がっていきまますので、該当する窓枠を取り換えることにいたしました。

新しいサッシは、アルミ樹脂複合窓といつて、該当箇所全てにアルミ網戸を設置することにより、快適性がアップします。夏はアルミ網戸の設置により通気性に優れてとても涼しくなり、冬は断熱効果が増して暖房効率が上がります。窓枠は、21ヶ所あり、足場なども含めたの工事費用は3,674,000円となりました。幸いにも、上越市には「上越市歴史的建造物等整備支援事業」という制度があり、市の許可が出れば、工事費の四分の三を出して頂けるというのを聞き、さっそくこの度の工事を受け持つて下さる「リフォームプレイス」代表取締役の岩崎浩和さんのご協力を得て、申請を致しました。



その後、建築関係の専門の方々15名がお見えになり、調査した結果、承認を頂き、支援金を頂けることになりました。関係者の皆様から「すばらしい建築物ですね。」と褒めていただきました。加えて、この浄福寺が「公開講座」やコンサートなどを開催して、地域に貢献しているということも申請が通った理由です。今までの活動が認められて、とても嬉しかったです。工事費用の内

訳は、市からの補助金が2,590,000円です。ので、こちらの負担は残りの1,084,000円となります。これに関しては、毎年門徒会より積立をしておりますJA建更の積立金から支出します。皆様からのご負担は一切ありませんので、ご安心下さい。秋のお彼岸までに工事が終了する予定です。結婚式に間に合つてちょうど良かったです。でも、これで、上越市には頭が上がらなくなりました(笑)。

浄福寺報恩講前の清掃奉仕の 御礼と次回のお願い

恒例となりました報恩講前の清掃奉仕を6月11日に実施しました。今回は馬正面・桃園・直海浜・三ツ屋浜・坂田・上下浜・法音寺・金谷・東谷内・雁海・小萱・下中山の皆様から来て頂き、仏具のおみがきや本堂の中の拭き掃除・庫裏の窓ふき、境内の清掃などをして頂きました。来て頂いた方にはおわかりだと思えますが、境内はとても広いです。ですから、皆様方からきれいにさせて頂き、とても助かります。もう慣れて下さって、率先して掃除をして下さいます。深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

次回のお煤払い清掃奉仕は、12月3日(日)。出羽・曙区・1区・2区・3区の皆様方の予定です。ご都合をつけて出席して下さいませ。よろしくお願ひ申し上げます。



チャリティーコンサート の案内

毎年、恒例になっておりますチャリティーコンサートを、今年は左記の通り開催致します。参加費は無料ですが、受付に募金箱をおいて「世界の子供にワクチン」を(日本委員会)に寄付したいと思えますので、ご協力をお願いいたします。

主な演奏者は、クレアのお二人とピアスの皆様、ソプラノの榎井沙弥さん。そして今年には中嶋裕一さんのフルートやオーボエ等の演奏も予定しています。多様な音楽演奏を皆さまと一緒に楽しみたいと思えますので、どうぞお誘いあわせてお越し下さい。



池野 心結さん(小6)

後記

今後共皆様方からの本誌へのご要望・ご意見、そしてご投稿をお気軽にお寄せ下さいます様お願ひ申し上げます。

編集 寺報編集委員会

印刷 榎小田

記
 ○日 時 11月5日(日) 14時~16時
 ○会場 浄福寺本堂
 ○参加費 無料(募金をお願いします)
 ○主な曲目 駅 そよ風の誘惑
 見上げてごらん夜の星を
 花は咲く 他